(6) クリーミィな美人も寝てばかりでは
－タイセツコムギ－

平成２年に奨励品種になった「タイセツコムギ」は、上川支庁管内限定のめん用小麦品種で、「チホクコムギ」の「真っ白美人」とは異なり、「ASW」(オーストラリア産めん用小麦銘柄）に類似の粉色であるクリーミィホワイト（黄色い白）がキャツチフレーズでした。

当初、実需の皆さんからはあまり期待する声が聞こえませんでしたが、普及して３年目頃より、大変色のよい乾麺に仕上がるとの評価が出されました。「チホクコムギ」のめんの色調が、黒ずんでいるのとは対照的に、明るい色相のめんができ、食感もよいとの評判で、実需の皆さんから作付拡大の要望がでるほどでした。

しかし、世の中ままならないもので、このころ上川支庁管内の小麦作付面積も、１万９千haから１万６千haを前後していましたが、小麦の連作障害による収量の低下が目立ち、時あたかも平成５年は全国的な稲作の大冷害と遭遇、平成６年より転作田の稲作への復元がはじまり、面積は逆に減少の方向になってしまい、現在は１万ha前後で推移しています。

もう一つ、この「タイセツコムギ」の欠点として、出穂後実が入ってきますと、倒伏（寝てしまう）しやすく、少し地力のあるところや、施肥量が少し多いと倒伏してしまいます。そのため、コンバインで収穫するにも、能率が上がらない上、ロスが多くなり、収量、品質にも影響するため、農家の皆さんからは徐々に敬遠されるようになりました。

一時は「ASW」並の期待の星の品種出現!!との期待もありましたが、普及面積が多くなるに従い、倒伏（寝る）面積が目立つ有様には閉口。品種改良が進む中、品質がよいだけでは普及がままならない難しさに、育成担当者をはじめ、普及現場を担当する普及員や専門技術員も悩むことしきり！

なお、「タイセツコムギ」の交配組み合わせは、北系920号×北見42号（チホクコムギ）で、「チホクコムギ」の粉色やうどんこ病抵抗性を改善することを主目標とし、それが実現して、ほとんど特性が「チホクコムギ」に類似あるいは改善されました。しかし、耐倒伏性（寝ない）のみ劣ったためと、

稲作復元、そして後続の「ホクシン」の出現などにより、上川支庁管内の小麦作付面積の40%、4千ha余（平成8年）の普及面積を最高に、やや早生、耐倒伏、耐病、多収で作りやすい「ホクシン」へと、徐々に移行することとなり、平成11年は種の「タイセツコムギ」の作付面積は1千300haまで低下し、秋まき小麦作付面積のわずか14%となっています。

しかし、麦の民間流通にともない、国産小麦で最もASWに近いと言われる「タイセツコムギ」の申し込み倍率は、平成12年産で2.8倍と道産秋まき小麦品種の中で一番希望数量の高い品種です。道産小麦の品質の優位性を維持するためにも、「タイセツコムギ」並以上の品質を持ち、欠点である耐倒伏性と、耐雪性を改良した品種の早期育成が望まれており、上川農試では初期世代から現地選抜を行い、その改良に努力しています。

＜宮本　裕之＞

成熟前のタイセツコムギ、部分的に倒伏し始めています

うどん（乾麺）